

# みぬま見聞館だより No.44

平成29年6月1日発行

【“ヌウ” & 見聞館キャラクター “クリンちゃん” より】

右の写真はコイカルです。市民の森のそばにある風車の近くで、3月に他の部署の職員が撮影しました。普段ほとんど目にする事ができません。

今年は、寒さが厳しかったせいか越冬チョウを見る事が少なかったです。

3月30日に気温が上昇すると、一斉にツマキチョウ、キタテハ、ウラギンシジミなどのチョウが飛び出しました。



コイカル

## あらわ パンダガモ現る！



ミコアイサのオス



ミコアイサのメス

ことし 今年<sup>ことし</sup>の冬、大宮公園内の池に「ミコアイサ」のオスとメスがあらわれたと聞き出してみました。3月中旬に訪れた時は池中央のアシ原からオスが姿を見せてくれましたが、残念ながらメスの姿は確認できませんでした。写真は別の日に他の部署の職員が撮影したもので、池のドジョウ？を食べているのを写真に収めています。身体が白く、目の周りが黒いのが特徴的で、オスは愛称を『パンダガモ』と呼ばれ親しまれていますが、メスは対照的にとても地味な色をしています。一度、アシ原に姿を隠すとなかなか出てきてくれませんでした。

か とり  
カモ科の鳥です。



## ようちゆう だっぴ オオムラサキの幼虫が脱皮しました！

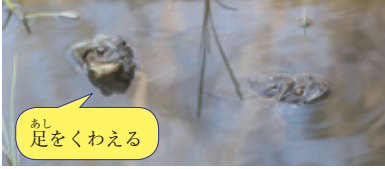


ことし 今年もさいたま市みどり愛護会大牧支部より、オオムラサキの幼虫を頂きました。4月末現在、約12匹が木の登りエノキの葉が成長するのをじっと待っています。4月25日に葉の上にいる幼虫がだっぴ脱皮しました。これからエノキの葉をたくさん食べて、6月にチョウとして昨年より大きな小屋の中を舞ってくれるでしょう。

# アズマヒキガエルの産卵



①産卵中



あし足をくわえる

②左から雄、雄、雌



③産卵した卵の塊がチューブ状



④孵って育ったオタマジャクシ

昨年さくねんに続き今年ことしも3月21日がつ にちに、タコノアシの浅い池あき いけにアズマヒキガエルあし くちが卵たまごを産みました。翌日よくじつの午後4時頃ごご じごろ、再び産卵ふたたび たまごしているところさんらんを発見はっけんしました。①は産卵さんらんしているところべつです。②は別のオスさんらんちゆうが産卵中さんらんちゆうのカップルのオスの足あしを口くちにくわえて、引き離ひそうとしてはないるところさんらん たまご かたまりです。③は産卵した卵の塊さんらん たまごで、④は4月24日がつ か育ったオタマジャクシか そだの集団しゆうだんです。この中の何匹なか なんびきが無事カエルふじになれるでしょうか。アズマヒキガエルは、ヒキガエル科かのカエルおもで主に地上ちじゆうで生活せいかつし昆虫こんちゆうなどを食たべます。以前いぜんは、草くさの茂しげった舗道ほどうの脇わきで大きく育おおった姿そだをよく見すがたかけましたが、最近さいきんはあまり姿すがたを見みかけなくなりました。

## 春の自然観察・環境学習会が行われました

4月23日に春の自然観察・環境学習会が行われました。

さいたま市しでは、環境教育かんきょうきょういくを推進すいしんするため、市内しなの環境施設かんきょうしせつや事業者じぎょうしゃなどが連携れんけいして、それぞれが持つ既存もの環境教育資源かんきょうきょういくしげんを有効活用ゆうこうかつようし、多くおほの人が環境かんきょうへの関心かんしんを持つ機会きかいを提供ていきやうする「ネットワーク型環境教育拠点施設@さいたまCITY」に取り組んでといます。現在げんざい、19施設しせつを「中核施設ちゅうかくしせつ」または「サテライト施設しせつ」と位置づけ、ネットワークを構築こうちくしています。今回こんかい、「中核施設ちゅうかくしせつ」の大宮南部浄化センターおおみやなんぶじょう化センターと「協力事業者きょうりょくじぎょうしゃ」の東京ガス株式会社埼玉支社とうきやうがぶしがさいたまししやとの初コラボ企画はつ きかくが実現じつげんしました。

当日とうじつは市民14組42名しみん 14くみ 42めいが参加さんかし①環境創造政策課かんきょうそうぞうせいさくかによるネットワークの説明せつめい、②東京ガス埼玉支社とうきやうがぶしがさいたまししやによる「エコ・クッキングミニ講話こうわ」③「リサイクル万華鏡づくり」、④環境対策課かんきょうたいさくかによる生きもの調査ちゆうさの説明せつめい、⑤庭園ていえんで春の花はるはなを観察かんさつしました。



①



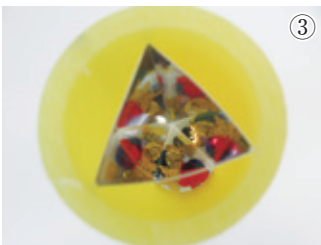
②



③



④



③



④



⑤



⑤



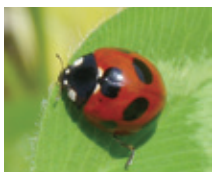
# 浅嶋先生のワンポイント教室

今回はこの庭園で見られるテントウムシ（天道虫）についていくつか述べてみたいと思います。

春早く3月頃から活動を始め、草原や畑などでよく見られるテントウムシは、赤色地に7つの黒紋をもつ①ナナホシテントウです。次に少し遅れて4月頃から活動を始め、この庭園で最もよく目にするのは②ナミテントウです。ナミテントウは色や斑紋に変化が多く、とても同じ種類とは思えないほどです。

テントウムシの習性としては、次の1～3があります。

- 1 触れると擬死に入り、このときに歩脚の関節から黄色い嫌な臭いのする体液を出す。
  - 2 素早くはないが、枝先まで登って行って、そこから羽を広げて空（太陽、天道様）に向かって飛び立つ（テントウムシの名前の由来となっている。）
  - 3 成虫も幼虫も食性は同じで、成虫で越冬し、夏眠もする。
- ・①ナナホシテントウ、②ナミテントウ、③ヒメカメノコテントウは植物に付くアブラムシを食べます。
  - ・④ヒメアカホシテントウはクワなどに付くクワシロカイガラムシやルビーロウムシを食べます。
  - ・⑤キイロテントウはウドンコ病などの菌類を食べます。
  - ・⑥オオニジュウヤホシテントウはジャガイモ、ナスなどのナス科の植物を食べます。



①ナナホシテントウ



②ナミテントウ



②ナミテントウ



②ナミテントウ



③ヒメカメノコテントウ



④ヒメアカホシテントウ



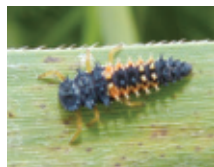
①ナナホシテントウ (幼虫)



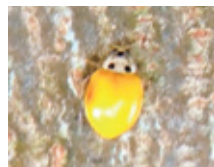
②ナミテントウ



②ナミテントウ



②ナミテントウ (幼虫)



⑤キイロテントウ



⑥オオニジュウヤホシテントウ

\* 浅嶋先生は、以前草加市立栄中学校で理科を担当していらっしゃいました。

## 庭園に変わった花が咲きました！



イカリソウ

庭園の木陰にちょっと変わった形の花が咲きました。花の形が船の碇に似ていることから「イカリソウ」と呼ばれています。4月下旬頃花が咲く多年草でメギ科の植物です。生薬として栄養剤にも使われています。

もう一つは「ウラシマソウ」です。

花も葉も変わった形をしており、林の木陰に生える多年草です。花の長く外へ伸びる部分を「浦島太郎」の釣り糸に見立て名前がつけました。4月中旬頃花が咲くサトイモ科の植物です。



ウラシマソウ

# 環境保全ポスター特選作品を公用車にラッピングしました

大宮南部浄化センター、クリーンセンター大崎、環境創造政策課で使用している電気自動車には、「さいたま市環境保全ポスター作品コンクール」において「特選」に入賞した作品を毎年ラッピングしています。この取組は、市内を走る公用車を活用して、環境保全についての意識啓発や、環境にやさしい電気自動車の普及を図ることを目的に実施しています。

平成28年度は応募のあった574点から選ばれた特選作品3点をラッピングし、三橋小学校、木崎小学校、大谷口小学校においてお披露目式を行いました。



三橋小学校 細川友世さん



木崎小学校 一村比呂さん



大谷口小学校 先崎萌花さん

## 団体見学がありました！



①庭園散策



②庭園を素材に写生会

- 3月3日大宮保育園が卒園遠足に訪れました。
- 5月1日大原中学校の「写生会」が行われました。

## お知らせ

7月23日(日)、8月20日(日) 夏休み自然観察・環境学習会が行われます。  
くわしくは後日、市のホームページ、市報さいたま等でお知らせします。

## みぬま見聞館・自然庭園の見学について

みぬま見聞館・自然庭園を10名以上で見学または職員の案内を希望される場合は事前にご連絡ください。個人での来館もお待ちしています。

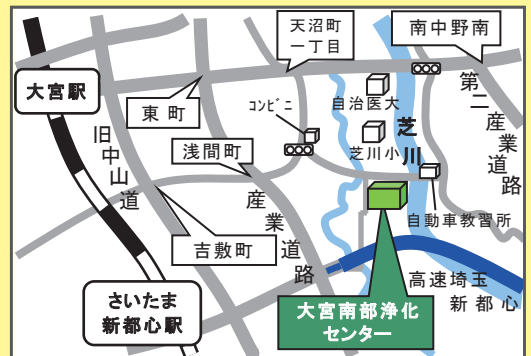
開館時間 9:00～17:00 入館料 無料

休館日 年末年始・毎月第4土曜日

住所 さいたま市見沼区大字上山口新田508番地1

電話番号 048-646-6030 FAX048-646-6033

※詳しくは、「みぬま見聞館」のホームページをご覧ください。



発行 さいたま市環境局施設部大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）



この印刷物は環境に配慮したインクで印刷しています  
印刷部数 6,200部 単価 14円

